

ベストクラス選定理由書

作成者：A 班（須田康之・藤井圭吾・筒井茂喜・北谷隆太郎・吉田晴彦・木下進次・沼田英佑）

| | | | |
|--------------|--|------|-------|
| 科目名称 | 初等図画工作科教育法（Aクラス） (担当教員名：木村道郎・柳奈保子・山城恵子) | | |
| 課程 | 学部・大学院（修士・専門職） | 開講時期 | 前期・後期 |
| 授業形態 | 講義・演習 | 授業規模 | 43人 |
| インタビュー対象教員名 | 木村道郎 (実施日時：平成29年6月29日13時10分～14時； 実施場所：総合研究棟中会議室) | | |
| インタビュー対象受講者名 | 非常勤による授業のため授業見学によって代替 (実施日時：平成29年7月6日 9時～10時30分； 実施場所：共通講義棟213教室) | | |
| 選定理由 | <p>本授業の目的は、初等図画工作科における基本的な内容と教材開発の視点について学ぶことにあ る。その際、図画工作科の目的と内容を十分に押さえながらも、一方で、図画工作科では子どもの 視座に立ちながら教育内容を編成することができることを十分に意識して、講義・演習の内容を構 成しているところにこの授業の特徴がある。</p> <p>本授業の優れた特徴は、次の3点に集約できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演習を中心に毎回受講生が楽しみ、知的刺激を得ることができるような工夫がなされている点。 授業は、通常の授業と同じく15回である。第1回の授業で図画工作科の教育的課題と展望が示 された後、子どもの絵を理解する手だて、子どもの絵の発達過程など基礎的な内容が講義され、 中ほどで、手による操作学習の価値の体験的理解や、4コマ漫画を用いた鑑賞教育の方法につ いて体験的に理解する内容が登場する。後半では、造形遊びの展開、図画工作科の題材開発と材料 の関わりというテーマで、グループワークを取り入れながら理解を深めていく授業がなされる。 毎回の授業が、学生にとっては知的刺激を受けるワクワクする授業となっている。 2. 教員の立場からの学びと子どもの立場に立った学びがうまく取り入れられている点。 インタビューの中で、木村先生は、「図工科は、現実と夢との境を埋めるような役割をはたして おり、いまだ形に現れていないことを、紙とクレヨンさえあれば、自らの手で形にすることがで きる教科であること」、「たとえ一本の線であったとしても、その線を見れば、描いた人の気迫が わかるということ」を話された。美術科教師としてどう振る舞いどのように思考するのかを、授 業者自らが授業のなかで体現してみせており、それは、子ども自身がどのように感じ、思考し、 表現するのかについて感じ取らせるような仕方でなされている。 3. 受講生が何よりも楽しく学んでいることが伝わってくる点。 授業を参観した後、受講生に授業の感想を聞いたところ、「毎回の授業が楽しく、教師になった 時に必要なことを得ることができているように思う」という回答が返ってきた。これは、授業者 が学生を受け入れ、かつ学生も授業者を信頼し、授業者がもつ熱意や配慮に引きつけられながら 学んでいる査証である。 <p>以上を踏まえて、「初等図画工作科教育法 A クラス」が、平成28年度のベストクラスに値する と判断した。</p> | | |